

平成31年4月6日

広島県小学生バレーボール連盟
加盟団体の皆様

広島県小学生バレーボール連盟
会 長 大 石 信 洋

健全な指導および応援の徹底について

平素より、広島県小学生バレーボール連盟の活動にご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

県大会以外にも各地区での大会等で熱戦が展開されていることと存じますが、次のような子どもたちを指導・応援する者としてふさわしくない事例が発生しております。

- 1 試合会場において、他のチームが萎縮するほどの言葉や態度で選手に接すること。
- 2 試合展開やその内容によって、選手を見放すような態度をとったり、言葉を投げつけたりすること。
- 3 ベンチや応援席から、判定を受け入れず、試合終了後も不満を示す言動をとること。
- 4 ラインジャッジをする選手に抗議し、冷静に判定することが難しい状況に追い込むこと。
- 5 その他、子どもたちを指導または応援するときに、現代の社会通念上ふさわしくない言動をとること。

このことは、小学生バレーボール全体の発展にとって大きなマイナスとなります。わたしたちが指導している小学生は、身体的にも精神的にも成長過程にあります。大人の感情的な指導によっては、ケガにつながるだけでなく、わたしたちが想像しているよりもはるかに大きな威圧感を感じ、心も傷つけてしまうこととなります。バレーボールが好きで、上手になりたいと思っている子どもたちが、身体的精神的に大きなダメージを受けることがあってはなりません。

本連盟では、**日本バレーボール協会の定める「指導における倫理ガイドライン」**並びに**日本小学生バレーボール連盟の定める「倫理規程」**を理解し、その遵守を誓約している役員、指導者が活動することを認めています。また、**バレーボール6人制競技規則**には、競技参加者の行為として、「競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。」と記されています。

今一度、子どもたちを指導・応援する指導者や保護者の皆様には、指導の原点に立ち戻って、行動言動全般について見直しを徹底されるようお願いいたします。ただし、このことは、決して厳しい練習を否定しているものではありません。勝利をめざすことは当然ですし、そのために厳しい練習も必要です。厳しい練習と、体罰や暴言などは全く次元が異なるものであることを再認識していただき、子どもたちが楽しくバレーボールをすることができる環境をつくっていきましょう。

以下、資料として掲載

- 日本バレーボール協会「指導における倫理ガイドライン～暴力とセクハラの根絶に向けて
- 日本小学生バレーボール連盟「倫理規程」